

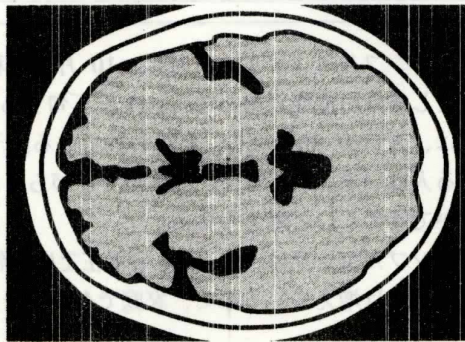
どうして子どもはお酒を飲んではいけないの？

指導 独立行政法人国立病院機構久里浜アルコール症センター 院長 丸山勝也先生

飲酒は、脳や骨、生殖器などが发育しているとおちゆうの子どもにとって、その发育に影響します。子どもが少量でも飲むことで、急性アルコール中毒になってしまうと、将来、脳や肝臓などの内臓の病気になる危険性が高くなります。そのため、未成年者の飲酒は法律で禁止されています。

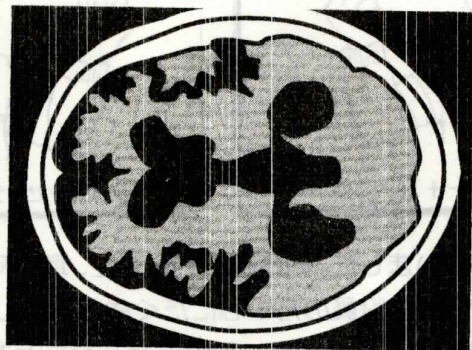
クリスマスやお正月など友だちや家族、親せきが集まる中で、小学生のみなさんは、さそわれて飲んだりすることがないようしましょう。

正常な人の脳



すぎ間がなく、脳細胞が活発に働いています。

10代からの飲酒で縮んだ脳



のすぎ間は、脳細胞が壊され、中央にすぎ間ができています。

親しい人から、お酒をすすめられたとしても、飲んではいけません。



アルコールは空身にえいきょうをあたえます！

「酒は白薬の長」といわれていますが、子どもがお酒を飲んだり、長い間にわたって大量に飲むことで、体のいろいろなところに危険がおこるといわれています。

